

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
皆様にとって2013年が充実した年となりますことを心よりお祈りしますとともに、
より一層のご支援、ご協力を賜りますよう、従業員一同心よりお願い申し上げます。



株式会社MANIX
代表取締役社長 松田 幸治

2012年を終えて

所感ではあります。2011年が激動の年であったとすれば、昨年は私たちの身の回りにおいて落ち着いた流れの中にあっという間に感じます。これから訪れる時代に向けて嵐の前の静けさかもしれません。これからの時代はどのように動くのでしょうか。

今は社会の変化が激しい時代にあり、私たちが関わる住宅業界も大きな再編が始まっています。私たちは変革の精神を持って歩み続け、時代に即した形態へと変わっていかねばならない。私たちが今取り組むべきことは何か、常に自問自答し行動に移さなければならない。

新年を迎えるにあたり、常に思うことです。2013年は政治、経済、金融、住宅業界、すべてが同時に大きな動きをみせる、そんな一年になるのではないのでしょうか。それ以降私たちにも直接的な変化が訪れることになると考えています。これまでに取り組んできたことをさらに深耕し、訪れる変革の時代に備えていくと同時に、こんな時代だからこそ、お得意先様、仕入れ先様をはじめ、関わる方々との関係を今まで以上に深め、共に歩むことを大きな目標とさせていただきたく考えております。そのために関わる皆さまのお役に立てるよう社員と共に努力する所存でございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

業界を考える

昨年も掲載をしましたが、全国ならびに府県別の新築着工数を下記に掲載します。

新設着工数推移(1月~9月累計) (単位:戸)

	2011年	2012年	対前年比
大阪	43,291	46,965	108.49%
兵庫	23,904	24,671	103.21%
岡山	8,133	9,276	114.05%
広島	12,189	11,459	94.01%
全国	625,140	642,457	102.77%

国土交通省
報道発表資料より

この数値を見て皆様は何を感じるでしょうか。私たちは日ごろ新聞やテレビ、雑誌から経済情報を得る中で、その情報の多くは日本全体を統計した内容になります。私たちが身近に感じる新築着工数は日本全国で対前年2.8%増の64.2万戸となっています。この情報は新聞などで得やすいのですが、果たして地域に生きる私たちにとって有効な情報と言えるのでしょうか。府県別の新築着工数を確認すると、大阪は8.5%増、兵庫は3.2%増、岡山は1.4%増、広島は6%減となっており、当然ながら全国統計とは違う数値が現れます。これをもう少し細かく分析しようとする各市町村のホームページより市町村別新築着工数の情報を得ることができます。当たり前のことで恐縮ですが、全国統計数値はあくまでも参考値であり、本来私たちが知るべき情報は市町村まで掘り下げなければならないと考えます。上記は一例ですが、このほかにもキッチンやユニットバス、洗面化粧台、便器などの出荷台数も都道府県別までは掘り下げて確認することができます。私たちが生きた情報を得るためには大きな統計数値から掘り下げて確認する必要があるのではないのでしょうか。大きな統計数値を把握しながら身近な統計数値まで掘り下げることで、初めて生きた情報になると考えています。いろんな統計数値を掘り下げていくと実に興味深い真実に遭遇するかもしれません。環境を分析する上で様々な角度から調査、検証することは大切であり、その中から次の施策を立案することができると思います。本年も情報発信に力を入れ、皆さまに有益な情報をお届けできるよう取り組んでまいります。

業界のトレンド

昨年は私にとって初めての経験をさせていただきました。イタリアのミラノで開催された世界最大規模の家具の展示会、ミラノサローネに行く機会をいただきました。この展示会は世界に流行を発信する展示会と言われ、二年に一度、キッチンや風呂などの水回り設備の展示があり、昨年のその年にあたりました。感想を一言で述べると、日本の商品開発と根本的に発想が違う、ということでしょうか。日本は機能を追求する開発に力を入れますが、海外メーカーはデザインを追求する開発に力を入れており、特にキッチンは家具の一部として扱われていると感じました。日本にもここで発信されたデザインや色合いがベースとなり、1~2年後の商品開発に取り入れられていると言われていました。また、水栓金具、IHクッキングヒーター、レンジフードなどの展示もあり、興味深いデザイン、機能を備えた商品も見ることができました。弊社として仕入れ可能な商品ではありませんが、一部の商品写真を掲載しますのでご興味がありましたらご確認ください。



①一見電気の傘のように見えますが、換気扇です。ダクト配管は無く、下方で吸い込んだ空気を傘の中で浄化し上方から排気する仕組みになっています。
②IHを上部から撮影しています。通常鍋やフライパンの置く位置は固定ですが、これは置いた鍋の中心を検知して発熱する仕組みになっています。
③一般的な洗面化粧台ですが、ほとんどの出展メーカーの商品が壁付けタイプの洗面化粧台でした。
④見にくいかもしれませんが、吐水口が筒状ではなく、上部がオープンになっています。
⑤角材を積み、上部に天板を載せてキッチンにしてみました。調理場側の下には収納キャビネットもありました。